

令和2年度 第1回 地域包括支援センター運営協議会

(荒川 地区)

コロナ禍での業務について（自由記載）※運協委員に報告したいことなど

※例えばこんな相談が増えた、どう対応したなど。あればいいです。

- ・コロナの終息が見えないので、お茶の間や転倒予防教室の開始がなかなか決まらない、との訴えがあった。

あらかわ互近所ささえ～る隊活動報告について（自由記載）

○今年度第1回目の会議を8月27日に行い、今年度の取り組み等について話し合った。

昨年度の荒川ささえあいワークショップであがった活動（前坪団地のお茶の間の開設、下鍛冶屋地区の助け合いの仕組み作り、大津地区の声掛等による助け合いの仕組み作り）について、取り組んでいくことになった。

- ・前坪団地のお茶の間については民生委員より、昨年まで地域の敬老会に出ていた方たちの中で亡くなった方もいて、参加者がいなくなってしまった。まとめ役の人がいないとなかなか難しいかもしれない、との話あり。

- ・下鍛冶屋地区の状況について区長さんに話を聞く。地区には33班ある。冬場の除雪は、区の役員11人でやっている。区長さんも一人暮らしや気になる人のところにはたまに行って、状況とか聞いてりしている。本人や家族から、別に困っていないと言われれば、そんなに何度も聞くことはできない。何かあるときには対応をする。

まわりは心配して介護保険サービスなど利用させたいと思っても、本人が大丈夫だから利用したくないと言うので、それ以上は勧められない。

- ・大津地区の状況については、今月末区長さんから話を伺うことにしている。

○各地区の問題点として感じることにについて意見交換を行った。

- ・コロナ禍で高齢者は活動自粛の結果、閉じこもりが増えている。

- ・コロナで話し合う場が少なくなった。

- ・高齢者宅を訪問する際、コロナの関係もあり、何か訪問するきっかけや話題がないと難しいかなと感じた。

- ・子供たちも部活動やスポ少などの活動ができなくなり、体力が落ちたと感じる。体を動かす機会が減り、ストレスがたまると感じる。

- ・隣に住んでいる人の顔が分からず、災害等の時、声をかけて良いのかどうか？と思う。